

令和6年度第1回青森市第三セクター一経営評価委員会会議概要

1 開催日時 令和6年10月2日(水) 9:20~10:20

2 開催場所 青森市役所 議会棟4階 第2委員会室

3 出席者

(1) 委員
委員長 紫関 正博(青森公立大学准教授)
副委員長 西谷 俊広(公認会計士)
委員 蛭名 哲治(税理士)

(2) 一般財団法人青森市文化観光振興財団
理事長 木村 文人
常務理事 鳥谷部 修
主幹 村川 宏毅
主査 工藤 さゆり

(3) 法人所管課 行政資産経営課
主幹 福田 幸高

(4) 事務局 行政資産経営課
課長 岩渕 寿哉
主査 古川 亜希子
主査 櫻田 博光

4 会議概要

一般財団法人青森市文化観光振興財団及び法人所管課に対し、経営状況基本情報シート及び経営評価シートの内容についてヒアリングを行った。

5 主な質疑内容

委員: 目的適合性についてであるが、貴法人は、設立目的に基づいた文化、観光及びレクリエーションの振興に関する各種事業を展開しており、青森市の施策推進に貢献していることについては、評価できるものとする。

一方で、令和5年5月から、新型コロナウイルスが5類分類になり行動制限がなくなったため、通常の運営に戻ったと思うが、施設によっては入込人数が減っているところがある。利用者数を増加させるためにはどのような取組が必要であるとお考えか。

法人：文化施設では、令和5年度は新型コロナによる行動制限以前に近い状況の入込人数となり、コンサート、イベント、全国規模の学会、大会等堅調を維持している。これまで通り、施設の空き状況、イベントスケジュール、催事情報等を公開し、予約しやすく、また来館者数が増えるよう努めている。

ユーサ浅虫事業所では、令和2年度、3年度と新型コロナウイルスによる行動制限の影響で観光客が減少し、また市の方針で施設を閉鎖した期間があるため赤字となったが、令和4年度、5年度は黒字転換している。しかし、売り上げに関してはコロナ禍以前に比べてまだ90~95%というところで、客層が団体旅行から個人旅行に切り替わってきた影響で、以前は大型観光バスが1台停まると数万の売り上げがあったのだが、今は個人旅行が増えてきたため、売り上げは減少している。

そのため、県外の観光客のほかに、市内、県内の客を呼び込むことに重点を置き、浅虫地域団体と協力して、月末にマルシェを月1回行う、周辺の海釣り公園、海水浴場、浅虫ダム湖のイベント情報を提供するなど、ユーサ浅虫自体の来館者が増えるように努力している状況である。

また、明後日から新ホームページを開設し、会議室の予約状況、お風呂の営業時間、料金等、様々な問い合わせに対応できるようにする予定である。ユーサ浅虫は観光客の一本足打法でなくて、地元、県内等々のお客さんと呼び込むということで多層的なやり方を推進している。

モヤヒルズ事業所については、施設の付加価値を上げるということが重要であると考えている。近年は登山ブームであり、今年度、市と連携して登山道を整備させていただいたので、それによって利用者も増になるのではないかと考えている。

また、情報の提供量が利用増に直結するため、ホームページ、SNS等を通じてイベント情報を継続的に発信していきたいと考えている。

委員：市民の多様な自己実現の要求にも対応できる事業内容の見直しという点についてどのような取組をお考えか。

法人：市民の要望を事業に生かすために意見箱を設置しており、いただいたご意見についてはマネージャー会議等を通じて新たな要望を取り入れ、既存の事業であってもサービスの向上につなげる、という手法で事業を見直している。

文化事業については、財団主催の公演の際はアンケートをとり、要望、意見を聞きながら次に向けて改善している。

委員：効率性・効果性についてであるが、事業実施後のアンケートやSNSの活用による市民ニーズの把握に努め、定期的に行っているミーティング等により事業実施手法や経費の見直しに取り組んでいることについては、評価できるものと考えている。また、職員一人当たりの収益高が増加しており、このことについては評価できるも

のとお考えるが、どのようなことが要因となり、それが収益に反映されたとお考るか。

法人：収益に関しては、文化事業であれば、財団が主催しているイベントのその時々規模の大きさに、収益の変動要因がある。大きな興業があれば最終的な収益が大きくなる。

もうひとつは、以前はスポーツ事業を広く展開しており、青森マラソン、社会体育施設、卓球大会、カーリング等の市の事業を受託していたが、事業を集約し人員を減らしてきたことにより、職員一人当たりの収益高の増につながっている。

ユーサ浅虫に関しては、レジの人員を減らしたり、一部の職員の業務に関してモヤヒルズとの兼務としたり、パートを短時間にしたりなど、細かい人員配置を工夫して効率化を図っている。

モヤヒルズにおいても、少ない人数で回しているということで収益が増加している面がある。

ただ、定員管理計画と照らし合わせて、3事業所とも少ない人数で回しているということもあり、今後は持続的な運営を図るためにも適切な人員配置をしていきたいとお考えている。

委員：組織運営の健全性についてであるが、各種規程等について整備し、それらに則った運用を行っていることは評価できるものとお考えている。

一方で、PDCAサイクルについて、システムは確立しているが、改善の余地があるとの評価だが、どのような改善が必要とお考るか。

法人：PDCAの運用については3事業所とも実施していることから○としたが、業務内容などによって目標設定が難しいチームがあること、また全職員がPDCAを理解しているとは言いがたい点があることから、今後は研修会などをして意識付けを図っていききたいとお考えている。

また、ユーサ浅虫については、1階のお土産売り場と別館の産直売り場の自主事業部分について強化をしていく。

委員：財務の健全性についてであるが、累積欠損金や借入金はなく、3期連続で当期損益額が黒字となり、経営努力が結果に結びついたことについては、評価できるものとお考えている。今後も財務の健全性を維持していくためには、どのような取組が必要だとお考るか。

法人：売り上げや収入を増やし安定させる、経費を削減して最終利益を残していくことに加えて、その継続性が一番大事だと考えている。

特に、事業所の特徴としてうまくいった年とそうでない年の差が大きくなる可能性

があり、モヤの場合は少雪、文化の場合は興行の赤字や中止、ユーサの場合はコロナのような閉館せざるを得ない状況の発生というリスクがあるため、賞与引当金等を引き当てし、把握しているものに関してはなるべくストックして、さまざまな影響で売り上げ減少や経営悪化になった場合に備えているので、1年ほど厳しい状況が続いても財政の健全は維持できるという態勢を作っている。

また、モヤヒルズは冬季の収入が8割を占めていて季節ごとのばらつきが非常に大きく、少雪等の場合は大きな影響を受けるため、今後は夏場のグリーンシーズンに関しても収入が確保できるようキャンプ等や森林ヨガなど新たな事業を展開して少しでも夏場の収入を増やしていきたいと考えている。

委員：さらなる収益性確保のために収益事業をどのように拡充させていくお考えか。

法人：文化スポーツ事業所では、主催の興行の収益が大きく、興行次第で利益があがることもあれば損をすることもあるため、冠スポンサーをつけて協賛していただくことに取り組んでいる。

また、集客力の高い興行をいかに開催するかは重要になるので、長年のノウハウで大手のプロダクションや芸能会社との関係があるため、そのルートは確保しつつ、更に収益の確保をしていきたいと考えている。

ユーザ浅虫事業所に関しては、まず浅虫に来ていただくことが重要であり、今年旅館のリニューアルもあったことから、これからは大切だと考えている。

モヤヒルズ事業所は、非常に天候に左右され、冬場は雪が少なければ利用者が減ってしまう、夏場においてもどうしても屋外のイベントになることから雨が降ってしまうとお客さんに来ていただけないというような面があるので、それらをカバーするような新たな事業を考えていかないといけないと思っている。

委員：令和5年度の決算について、それぞれの事業所の正味財産計算書をみると、指定管理料が前期と当期で大きく違っており、モヤヒルズ事業所は当期が増加、文化スポーツ事業所とユーザ浅虫は当期が減少しているが、これはなぜか。

法人：まず前年度より指定管理料が減った文化スポーツ事業所とユーザ浅虫事業所についてだが、令和5年度から指定管理制度の中身が変わったことによるものである。今までは文化会館、市民ホールは、会議室や大ホールなどの利用料は全て市の収入であり、ユーザ浅虫は、お風呂の収入、一階の家賃、会議室、これらは全て市の収入であったが、指定管理が令和5年度から一部利用料金制に変更になり、いわゆる賃料、ホール、お風呂、会議室の収入は財団の収入にしなさい、その分を見込んで指定管理料を減らし、その利用料金のなかで計画を立ててください、と、市のほうで制度設計してそれに基づいて令和5年度はスタートした。そのため、文化スポー

ツ事業所とユーサ浅虫は、令和5年度は指定管理の中身が変わったことで相応の指定管理料が減っている。

モヤヒルズ事業所については利用料金制がすでに導入されており、指定管理料が増学になっているのは、オープンから25年以上経過しているためリフトや圧雪機等の施設が老朽化してきており、その修繕費等を措置した結果として5千万円の増となった。

委員：令和5年度決算等財務書類のうち、財産目録に未収金の3月補正で900万ほど計上されているが、この概要を教えてください。

法人：電気、水道、灯油代等、光熱水費が指定管理料に含まれているが、これは年度末に精算し、余ったら市に返す、不足があれば追加で措置してもらうというやり方になっている。昨今の電気料、灯油等の値上げにより、3月の使用分に関して精算したところ、不足があったため追加していただいた分と、あとは3月中に行った修繕費用を立替払いしたものを3月補正で措置していただいた分である。

委員：事業報告書を見ると、指定管理施設の合浦亭の利用実績が低調なのではないか。

法人：毎年、指定管理事業のなかで、施設の有効利用として5月と10月のお茶会を3日間開催している。そのほかに、結婚写真の撮影、コスプレ撮影会、川柳の会等にも使用していただいているが、冬季間は閉鎖となることから利用実績を上げるのは難しい面もある。

委員：透明性についてであるが、情報公開に関する規程を整備しており、また、当該法人に関する各種情報、事業報告や決算資料などについては、インターネットを活用して積極的に公表するなど、その透明性の確保に向けた取組は評価できるものと考えているが、今後の取組方針について示していただきたい。

法人：情報公開に関する規程に基づき、ホームページを活用し、積極的に情報の提供しているところである。それぞれの事業所毎に必要な情報は、事業所のホームページで情報公開している。今後においても、継続的に情報公開に努める。

委員：自立性についてであるが、独立した経営体として自主・自立性を高めるため、自主財源を確保する自主事業の実施に努め、ユーサ浅虫の物産販売売上が増加するなど、業績が向上していることに関しては評価できるものと考えている。

また、市からの競争によらない収入の割合が低下し、自立性が高まっていることは評価できるものと考えている。

今後、更なる自主財源の確保のため、自主事業などで検討しているものがあれば、その内容について示していただきたい。

法人：ユーサ浅虫では、1 階のお土産売り場と別棟の産直市場で自主事業を展開しているが、商品の売り上げを分析し、季節のもの、売り上げが良いもの、新商品等お客様のニーズに合わせたものを出すよう努力している。そのために、業者や生産者から情報収集し、季節の産直食品の生産状況を把握し、確保等の準備をしている。また、観光客だけに頼らず、地元の市民に来ていただく工夫として、地域団体と協力してのマルシェほか、イベント性を持たせた販売で集客を図っている。

委員：指定管理業務の実施主体が第三セクターである必要性は希薄化していると思うが、この件について見解を伺いたい。

法人所管課：指定管理者制度が導入されたことにより、公共施設の管理運営については、民間事業者も参入可能となっているため、指定管理業務については、第三セクター、民間事業者を問わず、広く公募によりその実施者を選定しているところである。このため、現在、財団が指定管理業務を担っている施設については、その公募手続を経た結果ということになるが、このことによって財団自体の存在意義が希薄化しているとは考えておらず、競争により市の指定管理業務又はその他市の業務に携わることとなった場合は、これまでの経験やノウハウ、ネットワーク等の強みを生かして、一層の市の施策推進に貢献されることを期待している。

委員：中長期的な視点の下、令和5年3月に策定した経営戦略プランについて、現時点での進捗状況について、簡潔にお聞かせ願いたい。

法人：令和5年度からの指定管理業務は、順調に推移してきていると考えている。集客、売り上げ、最終利益が確保できており、翌年度の経営リスクにもある程度備えることができているため、堅調に推移しているという自己判断をしている。今後は予測できない天災、地震等様々なリスクへの対処も考慮に入れつつ経営していきたいと思う。
また、事業内容はさらに規模を拡大し、安定経営を目指していく。

委員：市所管課に伺うが、市として当該第三セクターに対し、どのようなことを期待しているのかお聞かせ願いたい。

法人所管課：青森市が取り組む文化・観光施策の事業領域において、競争等を経て市の業務に携わることとなった場合は、財団が有するこれまでの経験やノウハウ、ネットワー

ク等の強みを生かして、多種・多様化するニーズや時代に即した事業展開を図り、さらには、指定管理施設について、民間的手法を取り入れた効率的・効果的な施設の管理・運営のほか、利用者の利便性やサービスの向上など、一層の市の施策推進に貢献されることを期待している。また、今後においても経営改善等に取り組みながら、自主・自立性を高めるとともに、引き続き健全経営の促進が図られるよう期待している。